

No.	③	分類	3-(2)-ア	資料名	先輩からのメッセージ	学年	全学年	領域	道徳	2-(3)
-----	---	----	---------	-----	------------	----	-----	----	----	-------

### 1 ねらい

- 異年齢の集団の中で、自分の良さや仲間の尊さに気づき、人を思いやる態度を身につける。

### 2 趣旨

- 本資料は、けがをして試合に出られなかった「僕」が、自分本位な考え方でチームメイトに不満を感じている時に、仲間や自分の代わりに試合に出た後輩の言葉や態度を通して、思いやりの心の大切さに気づき、それを行動に移していこうとする様子が描かれている。児童期から青年期へと成長する過程の中で、その場の自分の思いにとらわれて周囲に失望するのではなく、視野を広げ、共に過ごす人々を大切に思える気持ちを育てたい。

### 3 配慮事項

- 部活動に所属していない生徒や集団生活の中で悩んでいる生徒の実態を事前に把握し、授業中や授業後の指導に留意する必要がある。
- まずは1ページ目だけを提示し、試合に出られなかったことへの葛藤について考えさせるのもよい。

### 4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 違う学年の人と交流した経験を話し合う。</p> <p>2 資料を読んで、春の大会での僕の気持ちを考える。</p> <p style="text-align: center;">「僕」は応援もせず、勝った後も暗い表情でいたのはなぜでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ せっかくがんばってきたのに試合に出られないのが悔しかった。</li> <li>・ 後輩が試合に出るのがおもしろくなかった。</li> <li>・ 自分がけがで出られない試合でチームが勝ち、みんなが喜んでいるのがおもしろくなかった。</li> <li>・ 自分の悔しい気持ちを、誰も分かっていないと感じた。</li> </ul> <p style="text-align: center;">「涙が出た。」のはなぜでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分勝手なことを考え、恥ずかしかった。</li> <li>・ チームが負けることを願い、情けなかった。</li> <li>・ みんなが自分のことを思ってくれていた。</li> <li>・ 目標に向かって頑張ろうと決意した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校時代も含めて学校行事や登校班などの異年齢集団での体験を思い出させる。</li> <li>・ 僕の思いは自分本位であることに気づかせる。</li> <li>・ 自分も僕と同じ気持ちになったことがないか自問させる。</li> <li>・ 後輩の涙と僕の涙に着目し、僕の心の動きを「自分本位な考え方」「仲間に配慮できる考え方」などの視点から考えさせる。</li> <li>・ 仲間への思いが深まったことに気づかせる。</li> </ul>
<p>3 「僕」の行動の変化を考える。</p> <p style="text-align: center;">「僕」が気づいた「自分の役割」とは何でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ けがや病気をしている仲間や、試合に出られない仲間や後輩への声かけや励ましを行う。</li> <li>・ 準備や片付けなどをしっかりやる。</li> <li>・ 先輩の思いや考えを後輩へ伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試合後、後輩が言った言葉に再度着目し、日々の中で、後輩たちがどのような目で先輩たちを見ているのか、また評価しているのかについて考えさせたい。</li> </ul>
<p>4 本時の感想や自分の体験について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分を振り返り、似たような体験があれば発表し合い、異年齢の集団の中での自分の役割やこれからの行動を考えさせる。</li> </ul>

「みんなと一緒に僕も歌える」～合唱を通して、仲間との関わりがA君を変えた～

「先生、A先輩が差し入れを持ってきてくださいました。」

本校のコーラス部には卒業生たちが後輩たちを激励にやってくる。そんな先輩たちの中でもA君は、度々訪ねてくれる先輩の一人だ。

A君は小学校時代、自分の中に思い入れがあって、それに反する事態が起きるとパニックを起し、人や物にあたり、大きな声を出して学校中を走り回るといった状態があった。そんなA君の中学校入学に際しては、関係機関にも今後の指導方針について意見を聞く必要があった。

A君は本校入学後、コーラス部に入学した。A君の小学校時代を知っている部員の間で、部内にトラブルが増えるのではないかと動揺があったが、心配したほどの大きなトラブルもなく活動を続けることができた。では、なぜA君はそんなに変わることができたのだろうか。

- ・心の拠り所ができた。

A君にとって、コーラス部は安心できる居場所であった。人は、悲しい時には歌えない。だからこそ、日頃の活動の中で、お互いを認め合うことを活動の基本とした。

- ・「分かった、出来た」という実感や、自分が上達していく実感が得られた。

練習をつめば必ず上達できるような一人一人に合ったアドバイスを、教師や先輩を中心とした周囲の人が常に与えることができる集団作りをめざした。

- ・周囲の生徒がA君のハンディにとらわれず、歌の好きな一人の仲間として受け入れた。

入学当初から先輩たちや同級生たちが根気強くA君を支え続けた。

- ・一人一人がコーラス部の一員として活躍し、部に貢献することができた。

自分の働きが部に貢献できているという実感がもてる活動をめざした。A君の努力が実り、上達し、活躍できる場所ができたことが大きな自信となった。

- ・同級生だけではなく、下級生からも認められ、慕われた。

A君の場合はこれらの要素がうまく作用し、自分の存在に自信と誇りをもつことにつながっていったのだと確信している。

A君は中学校卒業後高校に進学し、現在は専門学校で自身の希望する職業に就くための勉強をする傍ら、本校コーラス部の卒業生が多く所属する合唱団で毎週練習に参加し、年間にいくつかのステージに立って生き生きと活動をしている。

その日もA君は後輩たちと共に軽く発声練習をした。後輩たちは「やっぱり先輩はすごいなあ。」とA君を手本に練習に励んだ。照れながらも、後輩たちに慕われているA君は本当に頼もしい。A君は、後輩たちの練習をしばらく見学した後、にこやかな表情で家路についた。

(コーラス部顧問)



世界文化遺産記念フォーラムでの演奏



神戸新聞 2012(平成24)年10月24日(水)

姫路市立広嶺中学校コーラス部は、2005(平成17)年創部、当初は10余名から活動を開始しました。その後、全日本合唱コンクール関西大会において7回金賞を受賞し、全国大会にも3回出場しました。コンクール以外にも、世界文化遺産記念フォーラムでの記念演奏などを行い、地域の文化活動の高揚に貢献しています。

「優れた歌声を創り出すためには、みんなが認め合えて、自分に自信をもっていることが大切だ。」という顧問の先生の考え方のもとに、学年を越えて励まし合い、高め合い、日々の練習に励んでいます。そのつながりは卒業後も続いています。